



HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL 地域医療連携福祉センター NEWS LETTER

No. 1 5

地域医療連携福祉センターへの期待

本年4月1日より、北海道大学病院長を拝命した寶金清博です。今後3年間の目標として、人に優しく、社会に信頼される力強い北大病院
-----先端医療を北大から-----北大から世界へ-----
という目標を掲げました。短い言葉ですが、それぞれに意味を込めております。



この中で、最初の「人に優しく、社会に信頼される」の部分が、地域医療連携福祉と深く関わっております。チーム医療という言葉は、患者さんを中心に置いた水平的な多職種の間を意味しております。それは、一病院内に留まるものではなく、前方支援、後方支援を含めて、時間的にも空間的にも4次元的に適応されるものです。その意味で、地域の各医療施設、医療サービスとの連携の中心となるセンターは、チーム医療の中核にあります。

さらに、現在、総合診療医が、19番目の専門医として創設される予定です。総合診療医は、まだ、明確な定義や制度が完成していませんが、間違いなく、地域医療を担う専門家としての役割があります。北海道大学病院も今後、何らかの形で、総合診療医の教育や育成に関わることとなります。その意味で、本センターは、「教育」という視点からも大変に重要な変革期に入るように思います。

今後のセンターの発展は、北大病院の発展にとって必須です。病院執行部としても全力でサポートしたいと考えております。
北海道大学病院長 寶金 清博

地域医療連携福祉センターからのご挨拶

2013年4月より、西村正治前センター長（前副病院長）のあとを受けて、地域医療連携福祉センター長を仰せつかっております。

本センターは、地域医療連携部門と医療福祉相談部門が1つとなったもので、扱う業務の範囲は多岐にわたっております。地域医療を担う各医療機関との連携の推進は北大病院にとって大変重要な課題です。こうした中、病院機能連携についてさらに充実をはかる目的で医療機能連携締結に関する文書を各医療機関にお送りし、2013年4月現在で、医科997、歯科663の医療機関と協定を締結することができています。今後はさらに多くの札幌市内外の医療機関との連携を深め、北大病院を含む連携ネットワークが北海道の医療拠点のひとつとして発展するよう、さらに鋭意努力致したいと思っております。



センター長 渥美 達也

本センターの業務には、紹介予約患者受付、セカンドオピニオン外来のスムーズな運営を目的とした受付と担当医師への連絡・調整があります。この業務はすでに軌道に乗り、2012年度は5,301件の予約受付、93件のセカンドオピニオン受診が成立しました。これらの業務は、道内外の各種専門疾患の診療サービスに役立っていると自負いたします。また、退院調整部門では、各医療機関、福祉・介護分野の皆様と丁寧な連携を心がけ、転院や在宅療養調整を行っております。

本センターはがん患者の病診連携、病病連携の推進促進に留まらず患者や家族の精神的、社会的支援にも積極的に関わっています。どうぞ、皆様にご支援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

